

2010.10月

# 品質月報

*Monthly Quality Report*

発行部署 : サンシン電気(株)・品質保証部



SANSHIN GROUP



## 品質方針

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果と品質マネジメントシステムの効率的な運用により、お客様のニーズを満たす製品開発と安定的な製品供給をおこない、電機業界および社会へ貢献して参ります。

1. 事業活動において、いかなる場合も品質マネジメントシステムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遂行を通し品質の向上につとめて参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた品質マネジメントシステムの継続的な改善につとめて参ります。
4. 品質マネジメントシステムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成18年7月1日  
サンシングループ  
代表 石井宏宗



石井宏宗

# 今月のトピックス

## 徹底した自己管理で10年連続200安打

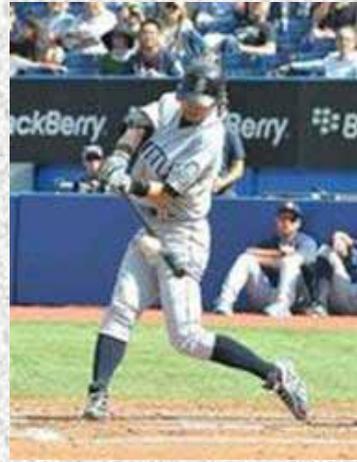
2010年9月23日、ブルージェイズ戦に1番・右翼で先発出場し、5回の第3打席で中堅へ安打を放ち、10年連続200安打を達成、自身が持つ大リーグ記録を更新したイチロー。

試合前のイチローは、外野フェンス沿いのジョギング、右翼のポジションでのストレッチ、それに室内でのティーバッティングを必ず行い、その中で100個以上のポイントをチェックする。

自己管理はそれだけではない。  
メジャーでは、試合前にスパイクはクラブハウスで働く人が磨いてくれるが、イチローは必ず自分で磨く。グラブも自分で磨き、磨きながらその日の反省をする。

道具を大切にすることは、自己管理の最たるものだろう。

最近、イチローの凄さに、メジャー球団の評価が改めて高まっている。凄さとは、彼のバッティング技術や強肩、走塁の上手さに対してではない。優勝というモチベーションを失ってもフル出場を続け、ヒットを打ち、出塁し、盗塁を重ねていくことについてである。



### 自己管理と自己分析

「自己成長は厳しい環境に身を置くことでしか得られない」という独特の哲学により、200安打という厳しい目標設定を置いているイチロー。

今、イチローは野球界では神的存在になっていますが、別のことをやっても、例えば会社員としてもバリバリやって一流にやっていくのだと思います。

それは自己分析・自己管理能力が優れており、自分の弱点を見つけ、それを素早く修正できるからだと思います。

「体調管理を怠らない」「持ち物を大切に扱う」「些細なことを疎かにしない」「自主的に行動する」「継続する」「結果が出なくても諦めない」「やれることをすべてやる」など、目標を達成するために小さいことを積み重ねることの大切さを結果で示しているイチローには、あらゆる点で学ぶべき点があると思います。

(品証)

# 今月の品質状況

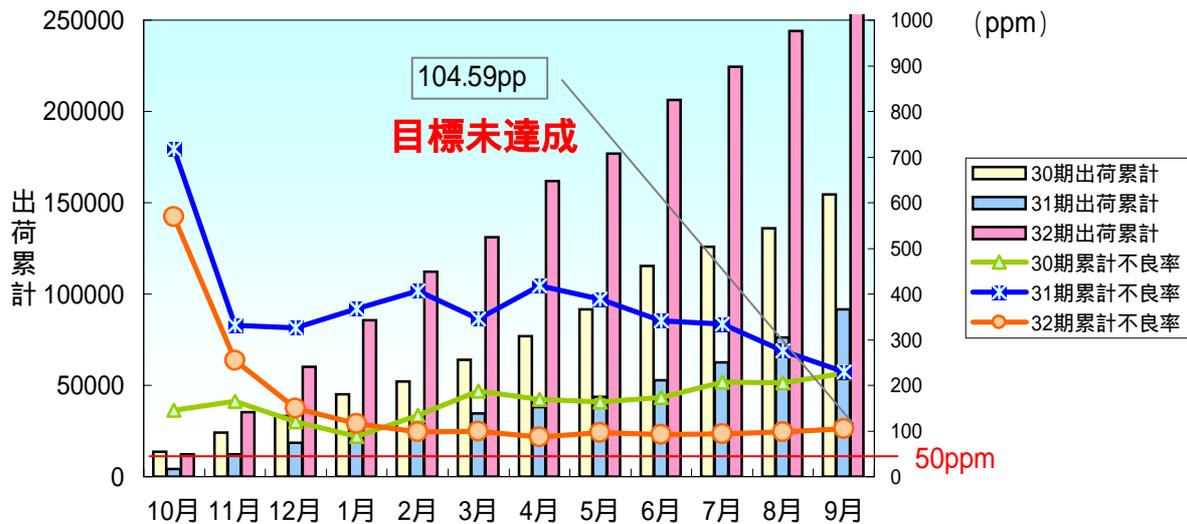
## 32期の旗印

**納入不良率** 目標……50ppm  
**最終不良率** 結果……104.59ppm

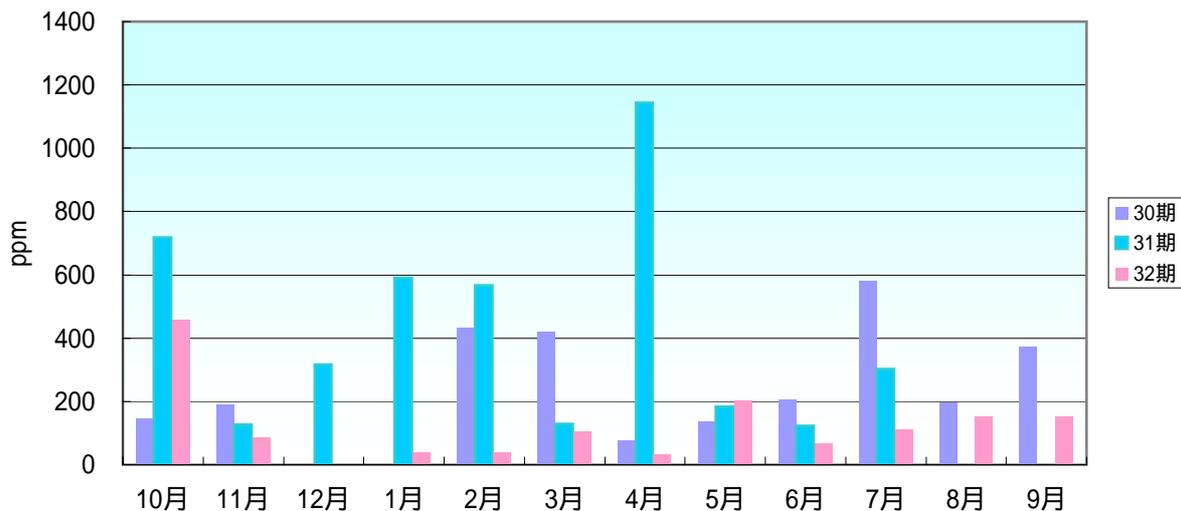
第32期の累計不良率は104.59ppmで目標未達成で32期を終了することになってしまいました。結果を出すことが出来ず、申し訳ありません。終盤で不具合が継続的に発生してしまい、最終的には100ppmも切ることが出来ませんでした。

未達成ではありますが、33期は30ppmを目標に挑戦して参ります。目標を達成する為に何をするか？具体的なアクションを実施していきたいと思ひます。

市場不良率 ( PPM )



各月市場不良率 ( PPM )

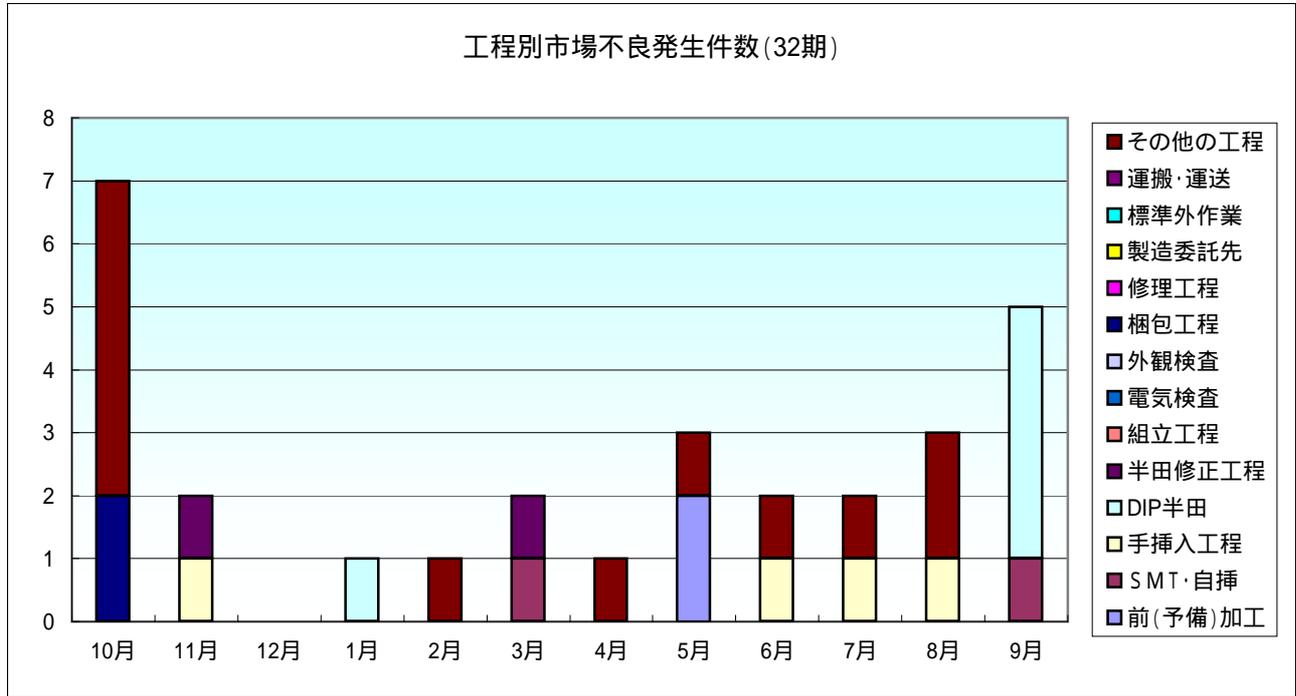


9月の単月不良率は150.48ppmです。同一機種4件の不良発生が響き、出荷台数が多いにも関わらず、累計不良率を押し上げる結果となってしまいました。ただし、累計不良率は確実に減少傾向になっており、来期の目標達成に努力していきたいと思ひます。

# 品質状況詳細

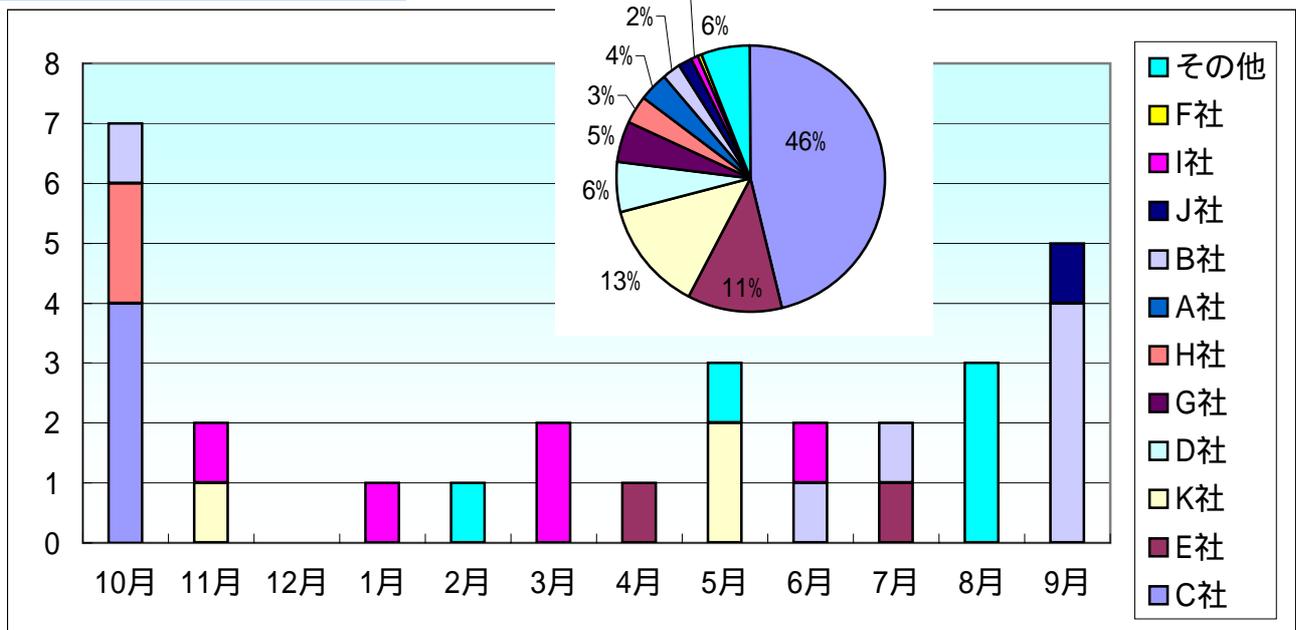
## その1) 原因別、並びに工程別市場不良発生状況

### 工程別不具合



今月は同一機種4件の不良が発生してしまい、全体の不良率を押し上げました。不良発生要因には設計要因が多分にあるのですが、それでも製造で止めて欲しい内容のものが増えてきているように思えます。不具合要因の撲滅と平衡して製造の品質レベルのアップを期待します。

### 客先別不具合



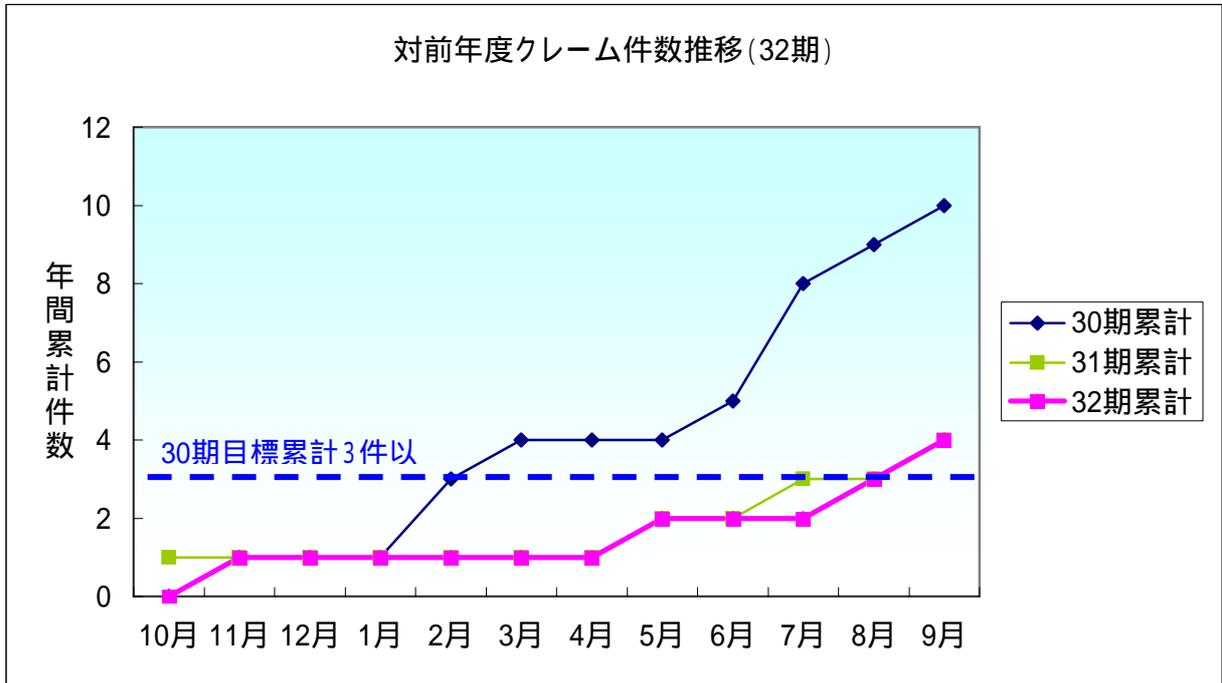
流出不良率の高い機種は絞られつつあります。まず、これらの機種の工程内不良を撲滅して行き、不良が流出しにくい体制にしていきたいと思えます。

# 品質状況詳細

## その1) クレーム発生推移状況

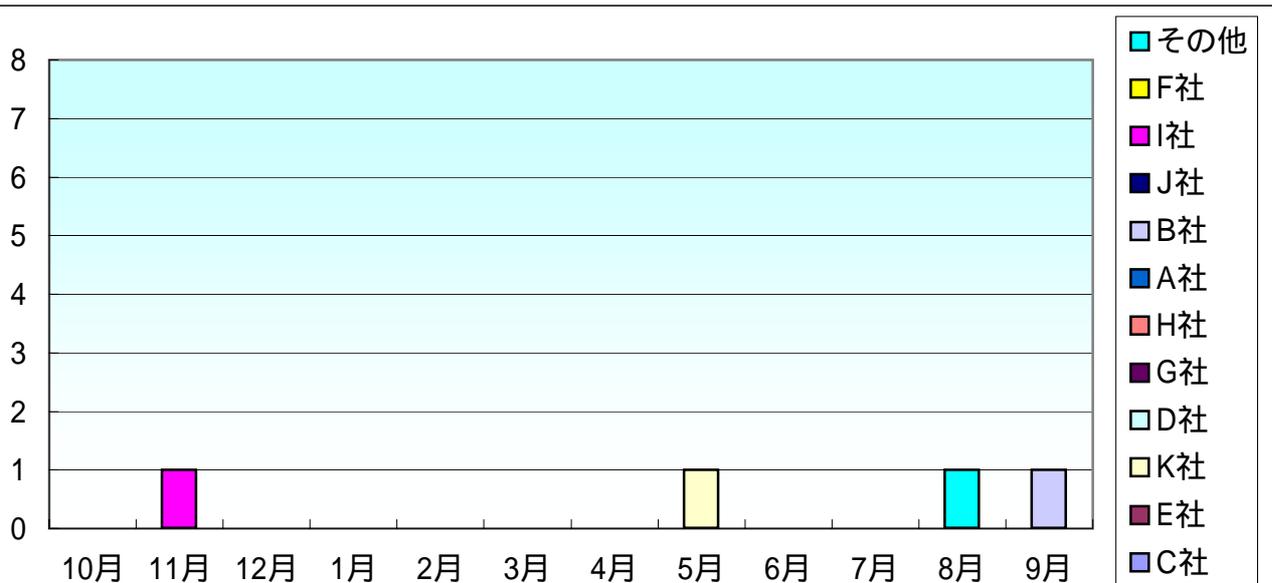
### クレーム発生推移

「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合



8月、9月とクレームが発生してしまい、目標である3件以内をオーバーしてしまいました。クレームとしては昨年度と同じく、4件で終了しましたが、これは非常に大きな問題であると感じております。33期は3件をクリアしなければいけません。

### 客先別クレーム発生状況



クレーム不良1件発生。  
クレーム不良が発生した客先に傾向性はありませんが、比較的納品数の少ない客先でクレームが発生してしまっているところが残念です。生産が少ない分、都度のフィードバックがしにくいという状況もあると思います。徐々に流れる機種は過去不良を認識してからライン投入をお願いします。

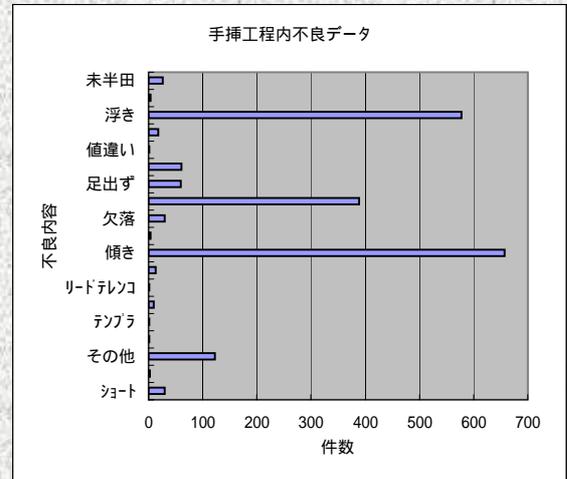
# 品質保証部の活動報告紹介

## 品質会議の実施

9月からの品質改善アクションの一環として、製造委託先・サンシン電気合同の品質会議が開始されました。

### 会議の内容

- 工程内の問題点抽出、改善検討
- ・製造ラインの工程内不良状況の把握
- ・不良内容を分析
- ・改善策を検討し、実施内容を決定
- 改善策を実施した結果報告
- ・検討した改善策を実施した結果を報告
- ・結果により今後の方向性決定



これらのアクションにより、まずは作りこみ品質を改善し、流出不良の根源を撲滅して行くことを目的として、毎月実施して行きます。

当面の目標としては、実装工程不良率 20ppm以下を目標に実施して参ります。(今後、手挿工程についても目標値を設定して実施して行きます。)

第51回



## 品質月間

2010年11月1日～30日

日本では、毎年11月を“品質月間”として、全国規模での品質意識の高揚、品質管理活動の幅広い普及を目的として続けられ、製品やサービスの品質の向上に寄与してきました。

### 品質月間の主な目的

- 顧客満足・従業員満足の徹底
- 品質保証体制の確認
- 製品、サービスの質向上
- ISO9001認証取得後の品質レベル向上
- 協力企業の体質強化
- 経営方針の展開と成果の確認

今年の品質月間は、50回目の節目を機に、新たな第1回目からのスタートを切る、と言う気持ちで、次のテーマに決まりました。

## 品質の原点にかえり先駆者の知恵に学ぶ

品質保証部としましても、初心にかえり、顧客満足の徹底、自社および協力会社の体質強化をするために、品質会議をさらに充実したものにして行きます。